

製造現場の課題に挑戦



中村正副会長から記念品を受け取る工学部の学生たち＝岐阜市柳戸、岐阜大

岐阜大工学部学生が企業実習開始

岐阜大工学部機械工学科の3年生が、県内の製造業の現場に飛び込み、課題解決に取り組む実習の出発式が、岐阜市柳戸の同大で行われた。
(大賀由貴子)

県や同大などが、学生の地元就職や地域経済活性化を図る「産学官連携人材育成・定着プロジェクト」の一環で、昨年に続き2回目。3年生約140人が美濃地方の19社で事業概要の説明を受けた後、11月～来年1月に生産ラインの改善や新商品の提案など、企業から出される課題に取り組む。

出発式で、森脇久隆学長が「現場実習で県内の企業をよく見て、将来の就職先としても考えてみてほしい。頑張って」と激励。同プロジェクト推進協議会

副会長の中村正秋田屋本店社長が学生に記念品を贈った。
岩田君彦さん(21)が代表して「卒業研究や今後の社会人生活で役立つ知見や知識を得たい」と意気込みを語り、学生たちはバスに乗り込んで各企業へ出発。経営者らの講話を聞いた。